

名水のふるさとを訪ねて～名水百選より～

忍野八海

山梨県南都留郡忍野村

忍野村の忍草地区には8つの池があり、その水は昔から「神の水」と崇められてきました。8つの池は忍野八海と呼ばれ、富士山の地下水が溶岩の間で80年もの歳月をかけてろ過され、湧き出したものです。周辺の茅葺き屋根の家が残る風景との、調和のとれた美しさが見どころです。

◆交通

富士急行線「富士吉田駅」より
「内野行き」バス25分、「忍野八海入口」下車

◆問い合わせ 忍野村役場地域振興課
TEL0555-84-3111

◆ホームページ

<http://www.vill.oshino.yamanashi.jp/>
(忍野村役場)



▲忍野八海の中で、最も湧水量の多い湧池。

湖底にできた 村に残る8つの池

忍野村のある盆地は、かつて、現在の山中湖とつながった「宇津湖」という巨大な湖でした。約1200年前の富士山の大噴火によって山中湖と忍野湖に分かれ、その後、忍野湖は干上がって現在の盆地になりました。そのとき残った8つの湧水（池）が、現在の忍野八海です。それぞれ湧池、出口池、お釜池、濁池、鏡池、菖蒲池、底抜池、銚子池と呼ばれています。

探勝の中心地となっているのは湧池。湧水量が最も

多く、1日23万tといわれています。持ち帰りにはできませんが、水飲み場の水は飲めます。

「神の水」と呼ばれているように、池にはそれぞれ伝説があります。例えば湧池には木花開耶姫にまつわる伝説が残されています。富士山が噴火したとき、野火や濁きに苦しめられた人々が水を求めて叫び続けたところ、「私を信じて永遠に敬うなら水を与えよう」という美しい声が天から聞えてきました。そして、しばらくすると溶岩から水が湧き出したといわれています。この声の主が木花開耶姫で、以来、人々の信仰が続いているそうです。

MAP

MEISUI walking



周辺散策

立ち寄りスポット

出口池

忍野八海の中で、ひとつだけ離れた位置にある池。この池の水を持って富士山に登ると、無事下山できるという言い伝えがあるそうです。八海めぐり第1の霊場として龍蛇竜王が祀られています。



濁池

八海めぐり第6番の霊場として、阿那婆達多竜王を祀っています。飲み水を求めた行者に対し、地主の老婆が無愛想に断ったため、池が濁ったという伝説が残っていますが、現在の濁池は透明で美しい池です。

忍草浅間神社

木花開耶姫などを祀る神社。3体ある御神像はいずれもヒノキ1本遣りで、県下最古といわれています。社殿や仁王門をとり囲むようにイチイの木が群集し、そのほとんどが県天然記念物となっています。



榛の木林資料館

(TEL0555-84-2587)
18世紀に建てられた養蚕農家・渡辺家の母屋を公開しています。茅葺き屋根の屋敷の中には、長持、筆筒のほか、鎧、兜、刀剣類、古文書などを展示しています。庭には八海のひとつ、底抜池があります。

さかな公園

(TEL0555-84-7261 森の学習館)
水と森のテーマパーク。森の学習館(無料)と富士湧水の里水族館(大人400円、小人200円)の2つの施設があります。園内には川や池、小さな滝が整備され、気軽に水と親しめます。

富士山が生んだ名水

山梨県と静岡県には、富士山の名水が数多くあります。その一部を紹介します。

まずは山梨県の名水。「不尽の水」は、晴沢村の「道の駅なるさわ」で飲めます。地下300mまでボーリングし、汲み上げた富士山の地下水です。富士吉田市の「泉瑞」は源頼朝ゆかりの名水で、北口本宮富士浅間神社の境内に湧き出しています。

静岡県で有名な湧水は、柿田川湧水群。1日の湧水

量は100万tにもものぼり、その神秘的な美しさは一見の価値があります。「湧玉池」は、富士宮市の富士山本宮浅間神社の境内にある湧水池。昔から、富士山を信仰する人々の聖水として知られています。

富士山の地下水には、バナジウムというミネラル成分が多く含まれます。地下水が玄武岩の層を通るとき、岩石中の成分が水に溶け込んだもので、糖尿病治療などに効果があると期待されています。